

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日目に出来るように、事務所や廊下などに掲示し、申し送りや会議の時など、いつでも話し合いの出来る場を作り実践につなげている。	地元に馴染みの深い「ぶなの森」の教えを基に、「笑顔・満足・まごころ」を介護理念として掲げ、家庭的な雰囲気の中で、利用者一人ひとりに丁寧な対応を心掛け、日々のサービスを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りに参加したり、お花見に寄せてもらったり、日向ぼっこや散歩の時など、立ち寄ってくれたり、あいさつを交わしたりと積極的に行い防災訓練への参加も計画している。	地域行事への積極的な参加が図られている。養護学校生の職場体験や実習生・研修生の受け入れも積極的に行われており、近隣住民や馴染みの方も気軽に立ち寄ることの出来る施設を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会や見学に来られた方の疑問に答えたり、外出に付き添い、介助している場面を地域の方はみていて話しかけてきたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告をするだけでなく、市や町内の情報を聞かせて頂いたり、グループホームでの行事などを地域の人に知らせて頂いたりしている。	運営推進会議を施設の応援団に位置付けし、要望・助言等の意見を真摯に受け止め、日々のサービス提供に活かしている。会議後は職員会議を開催し、職員に対しても積極的に情報の共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域のケア会議などに参加をし、ケアについての情報交換や研修を行い、いつでも連絡の取り合える協力関係を築けるよう努めている。	市担当職員との積極的な連携が構築されており、運営推進会議への出席時のみでなく、折に触れて、こまめな相談・連絡・助言等がなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が禁止である事を職員全員で理解し、玄関など施錠をせず安全を保てるようにセンサーを利用したりしながら取り組み、再度研修を行い、確認をし理解をする。	玄関の施錠をせずセンサーを設置し、身体拘束廃止を強く推し進めている。魚沼市SO Sネットワークや定期的な社内研修を実施するなど、職員全員の意識統一がなされている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修参加への声かけや参加しやすい勤務体制にし、小さい事でも疑いがある場合などは、すぐに話し合いの出来る場を設けている。	虐待防止に向け、職員のストレスが蓄積されないよう、勤務体制の工夫や外部研修、資格取得時における体制整備等も配慮がなされている。また、常に職員間で愚痴や悩みが言い合える関係性も構築されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がおり学ぶ機会も持たれ、職員全体で支援している。自立支援事業を利用されようと思っている方がおり、職員で理解し支援していこうとしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時、料金改定などがあった場合は、内容が理解されやすいように説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時など、家族から話を聞かせてもらい、苦情等と受け止めた意見は職員間で共有し改善に努めている。	利用者やご家族には訪問時に出来るだけ意見要望等を伺い、ミーティング・職員会議等で協議し改善に向けて努力している。苦情等に対しても速やかな対応を実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や普段からも意見などの話しやすい雰囲気を作り、出された意見などを反映させるように、話し合いをもっている。	毎月20日に法人役員・管理者が出席しない職員会議が開催され、自由闊達な意見要望が発言される。意見等はその後開催される運営会議の中で協議するなど、風通しの良い運営体制が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員が向上心を持って働けるよう、勤務希望にも柔軟性を持って調整出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修会や学習会には多くの職員が参加出来るように働きかけ、内部での研修も毎月実施している。資料などもいつでも見る事の出来るようにしてある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流会をかねた勉強会に参加し、日頃のケアの悩みなどを話し合い、他のホームの工夫などを取り入れていけるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からのお話だけでなく、本人の話を聞き、本人の様子を良く見て安心できる声かけや、サービスに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っている事、不安な事、求めている事などをじっくり聞きご家族の安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が今一番何を必要としているかを見極め、グループホームだけに留めておかず、地域包括支援センターや他の事業所等と連携しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段からの会話の中から、得意な事や好きな事を見つけ、一緒に行う事だけでなく、職員が教えてもらうという気持ちをもって接している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援しているという一方的な関係ではなく、ご家族の面会時には、普段の様子や状態をお知らせしながら本人を支えていく為の協力関係を築いていくよう努めている。	ご家族の対応には個別に対応している。季節ごとの衣類交換を依頼し、家族に負担を感じさせないように定期的な来所を案内する等、ご家族との距離を縮める配慮を実践している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居された事で、それまでの馴染みの人や場所との関係が途切れないように心がけ、その人の生活習慣を尊重していくよう努めている。	面会時間の制限を設けておらず、いつでもあなたが面会に来られても良い。また、出来るだけ本人や家族の思いをお聞きし、馴染みの場所に出掛ける等、関係が途切れないような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が助け合い、支え合っていく中で心身の状態や、気分、感情で日々変化することもあるので注意しながら見守り支援するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要になった場合は、出来るだけ細かく、本人の状況や情報などを詳しく伝えるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中や、本人に聞いたりしながら希望や意向を出来る限り実現できるよう努め、困難な場合などは、家族などに聞きながらより一層関心をはらい話し合うようにしている。	日々の利用者の表情、態度や会話等からも意向の把握に努めている。また、面接時の情報を基に利用者がより良い「暮らし」が出来るよう、家族からも情報を得ながら丁寧な対応を実践している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や、家族から話を聞かせてもらい、入居されてからも毎日の生活の中から把握するよう努めている。	個々の利用者からの聞き取りや、家族、知人からこれまでの暮らし方や生活歴をお聞きし、日々のサービス利用の継続性を把握する努力がなされている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解し、その人の出来る力、分かる力を見つけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から要望や意見などを聞き、日常の関わりの中からの気づきやアイデアなどを取り入れ本人の為に介護計画を作成するようにしている。	アセスメント、本人・家族の要望、モニタリング、カンファレンス等を基に検討し、意見を集約・反映した介護計画の作成に努めている。利用者の状態変化が生じた場合には速やかに対応し、柔軟に計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気づきなどを個々のケース記録に記入し、個別の連絡などは連絡ノートに記入し、職員同士情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況や、要望に応じ、通院・買い物など必要な支援などに柔軟に対応し、本人やご家族の負担を軽減できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアへの呼びかけや、近くのAコープやコンビニ、理容院、美容院などを利用して頂き本人の暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望されるかかりつけ医と、協力医のどちらでも医療を受けられるようにしており、ご家族の同行が無理な場合は職員が同行するようにしている。	近隣に協力病院もあり、契約時に家族の希望を確認したうえで各医療機関へ受診がなされている。原則として、家族に同行をお願いしているが、困難な場合には職員が同行するなど、適切な支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約をしており、毎週1回の訪問と24時間対応してもらえる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人支援の為の情報を医療機関に提供し、家族との情報交換を頻繁にしながら速やかな退院の支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初めてのターミナルケアの方がおり、本人やご家族との話し合いをもち、訪問看護と協力病院との連携を取りながら支援している。	現在、ターミナルケアの利用者がおられる。当初、職員間でも「未経験」による不安や戸惑いも感じられたが、現在は24時間体制の訪問看護・協力病院と密に連携を図りながら、本人・家族の意向に応じて適切な支援に取り組んでいる。	家族の意向を確認しながらも、状態変化や加齢により重度化した場合の終末期の対応に対して、職員間の支援の在り方が重要になると思われる。利用者や職員間における対応方針の共有化の構築を期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDも導入し、急変時などに備え、年に1回消防署から来てもらい応急手当や初期対応の訓練を行っている。	玄関にAEDを設置し、地域住民にも分かりやすくしている。また、年1回の救急法講習やDVDを用いた勉強・訓練を全職員に義務付けし、訪問看護との24時間体制や地域との連携による体制強化を図っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回の自主的な消防訓練、年1回の消防署の協力を得ての訓練を行い、近所に職員も住んでおり協力を得られ地域での訓練への参加も計画している。	多様な災害を想定した訓練を2か月に1回、利用者全員参加で実施されている。また、年に1回消防署の協力を得て訓練も実施されており、緊急時の備えとして周知徹底を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の研修も行い、一人一人の呼び方も、本人に確認し、本人の呼んでもらいたい呼び方で声をかけるように対応している。	個人の誇りや個性を損なう事のないよう、言葉遣いや目線などに配慮した姿勢や態度に努めている。地域的に「同姓」の利用者が多いので、了解を得て「名前」でお呼びする等、丁寧な配慮がなされている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	最初から職員の決めた事をおしつけるのではなく、本人の希望を聞いたり、自分で決める事の出来る働きかけを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のその人の状態などに合わせその人のペースで過ごして頂けるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の着替え、入浴後の着替えなども本人の意向で決めて行くように努め、理美容院なども本人の希望に合わせた店などに行かれるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物食べたい物などを聞きながら献立をたてたり自分たちで作った野菜を利用したり、食事の準備・食事・片付けを一緒に行うようにしている。	調理・献立作りは在宅生活の延長線であると捉え、横の畑で利用者が協同で収穫した野菜を用いての調理がなされている。職員も共に食事し、団欒の場となるよう目配りされた配慮がなされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に栄養士から、アドバイスを頂き、一人一人に合わせた量やバランスを検討し、その人にあった食事形態など工夫しながら支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が、口腔ケアの重要性を理解し、毎食後に一人一人に応じた口腔ケアの介助を行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンをつかみながら時間をみて誘導するようにし、拒否のある時など声かけに工夫をし、本人を傷つけないよう周囲に配慮しながら支援している。	個々のサインを観察し、必要に応じてさりげなく付き添うなど、個々の利用者に応じた排泄パターンの把握に努めており、声掛け等におけるプライバシーの配慮にも心掛けた支援を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事でも繊維質の物や乳製品などを取り入れ毎日体操で体を動かし自然排便に出来る様に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応の曜日などを決めているが、本人からの希望があった場合などは、可能な限り希望に添えるように支援し季節に合わせた変わり湯なども工夫している。	基本的に週3回、午後から実施されている。希望に応じて毎日、且つ午前も対応が可能となっており、担当職員の変更も可能である。浴室内の事故防止に向けた見守りも徹底し、安全で自由に快適な支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の生活リズムを整え、一人一人のその日の体調などを考え、ゆっくりと安心して休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の内容をすぐ分かるようファイルにし、間違えのないよう朝・昼・夕に袋の色を変え名前を確認し、きちんと服薬できているか確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・片付け・洗い物・掃除・干し物など、その人の得意な所を活かし仕事をお願いし、外出・外食・ボランティア・行事や行事食など楽しみな事を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、日光浴や散歩などを心がけ、本人の希望に合わせ買い物・ドライブなどに出かけている。	一人ひとりの習慣や楽しみ、希望に応じた外出支援がなされており、また、魚沼市内8つのグループホームが主催するイベント等にもタクシー・バスを利用し、いつでも出掛けられるよう配慮するなど、利用者の視点に立った配慮を心掛けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人に応じて、お金を所持され、買い物や受診された時など自分で支払うという満足感や安心感を考えながら、支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話のかけやすい態勢にし、手紙を出す代行も頼みやすい雰囲気作りをし、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間などには、利用者の馴染みの物や、本、ゆったり過ごせるソファなどを置き、食堂には、いつでもお茶が飲める工夫をし、廊下などには季節の花・絵、写真などを飾り、季節感を取り入れている。	花・絵・写真などの装飾により、明るく季節感を感じさせる工夫が随所に窺える。ホールの窓からは四季の花や、田畑、山並みが一眺出来、悠久を感じさせてくれる。1階には畳の居間もあり、個々のくつろぎスペースとして利用されるなど、優しい配慮が伝わってくる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにゆったり過ごせるソファや腰のおろせるカーペットを敷いたり、畳の居間を用意したり、玄関や廊下にイスやベンチを置いたり好きな所で過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく過ごせるように、使い慣れた寝具や仏壇などが置かれ、他の家具なども家族・本人と相談し居心地よく過ごされる物を使われている。	使い慣れた家具や物品が置かれ、個々の利用者の居心地の良さに配慮がなされている。趣味や余暇物品はホールにも用意されているが、持ち込みも自由で、居心地良く自立した生活が出来るように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の「出来る事」「わかる事」を職員全員が理解し、状態が変わったときには、話し合いをもち、常に安全で自立した生活が出来る環境を作るよう工夫している。		